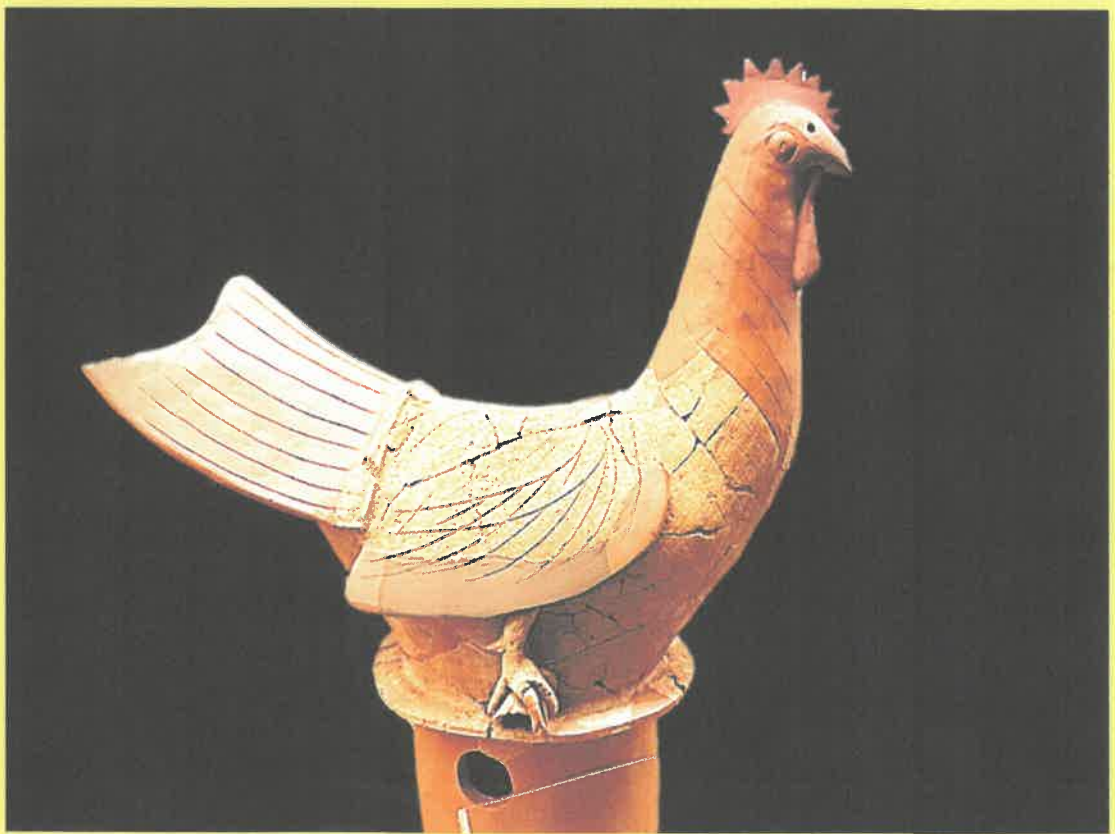


東国文化自由研究

テーマ

「闇を照らす一声」を求めて
～鶏形埴輪に隠された古代人の祈り～



伊勢崎市立赤堀小学校

6年3組 津布工 朝陽

1.調査の動機・目的

昨年の東国文化自由研究で人物埴輪を調べて以来、埴輪に込められた古代の人々の思いへの関心が高まった。そんな時、赤堀歴史民俗資料館で体験した、MR で見る鶏形埴輪に心を奪われた。実物大の埴輪が現実世界に浮かび上がったとき、その力強い姿に心惹かれました。あらゆる角度から観察できるこの体験は、この鶏形埴輪がどんな目的で作られ、どのような意味を持っていたのか、その謎を解き明かしたいという強い動機を与えてくれた。そこで、この鶏形埴輪に込められた古代の人々の思いを深く知り、多くの人に伝えたいと考え、今回の調査を行うことにした。

2.調査方法・内容

- ① 赤堀歴史民俗資料館での情報収集とインタビュー、展示物から学ぶ。

今回も赤堀歴史民俗資料館の館長、川道さんにお話を伺うことができ、質問に答えていただいた。



- ② 文献とインターネットによる情報収集

図書館の本やインターネットを活用し、埴輪に関する資料を収集・分析した。

3.調査の結果と考察

1.鶏形埴輪が出土した赤堀茶臼山古墳とは？

赤堀茶臼山古墳は、群馬県伊勢崎市に位置する帆立貝形古墳。5世紀中頃に築造された東国を代表する大型古墳の一つであり、当時のこの地域の有力者の墓だと考えられている。



(1) 古墳の特徴

- ・規模と形状： 古墳の全長は約 62.4 メートルで、後円部が特に発達した帆立貝形をしている。この形状は、当時の有力者がヤマト王権との関係を築き、その権威を示そうとしていたことを物語っている。

- ・出土した埴輪：昭和4年（1929年）に行われた発掘調査では、家形埴輪8棟をはじめ、盾形、蓋形、椅子形、鶏形など、多種多様な形象埴輪が出土した。これらの埴輪は、ヤマト王権の中心地である畿内の埴輪と様式が非常に似ていることから、この古墳が当時の最先端の文化と技術の影響を受けていたことが分かる。



- ・埴輪の配置：赤堀茶臼山古墳の8棟の家形埴輪は、古墳の中でも最も重要な埋葬施設のある墳頂部に円筒埴輪列に囲まれて飾られていたと推定されている。



家形埴輪の役割

被葬者の魂が宿る「依り代」であり、古墳の中心的な役割を担っていた。被葬者の生前の居館を象徴し、その魂が永遠に安らかに過ごせる場所として置かれた。



家形埴輪の破片と鶏形埴輪の破片が近接して出土

⇒偶然ではなく、意図的に配置！？

⇒他の埴輪に比べて重要！？

- ・埴輪の製作地：古墳から約3キロメートル離れた場所にある釜ノ口遺跡から、赤堀茶臼山古墳の埴輪と同じものが製作されていた痕跡が見つかっており、この地域に埴輪を専門に作る工房があったことが明らかになった。埴輪工房である釜ノ口遺跡から出土した鶏形埴輪の羽破片が赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪と接合した。つまり・・・



赤堀茶臼山古墳の埴輪を生産した埴輪工房が釜ノ口遺跡であると考えられる！！

<赤堀歴史民俗資料館の館長さんに質問>



赤堀茶臼山古墳の被葬者は、どのような人物だったと考えられますか？



前方後円墳には入れなかったが、埴輪はすごい作りをしているので、ヤマト王権とのつながりを太く持っていて、この地を支配していた人だと考えられるよ



赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪と釜／口遺跡の羽破片が接合した時、館長さんにとってどのような衝撃がありましたか？



私はこの瞬間に立ち会いましたが、羽がつくことの意味がわかっていたので身震いがして、鳥肌が立ちました。そして世に出てよかったと思いました。今までわかっていなかったことがわかる瞬間なのでゾクゾクします。だからこの仕事はやめられません！

(2) ヤマト王権とのつながり

・熟練した職人の派遣

赤堀茶臼山古墳から出土した埴輪が畿内の様式によく似ているのは、ヤマト王権から熟練した職人が派遣され、この地域の工房で埴輪を製作したからだと考えられる。これは、ヤマト王権が地方の豪族に対して、最新の文化や技術を提供し、友好関係を築こうとしていたことをあらわしている。

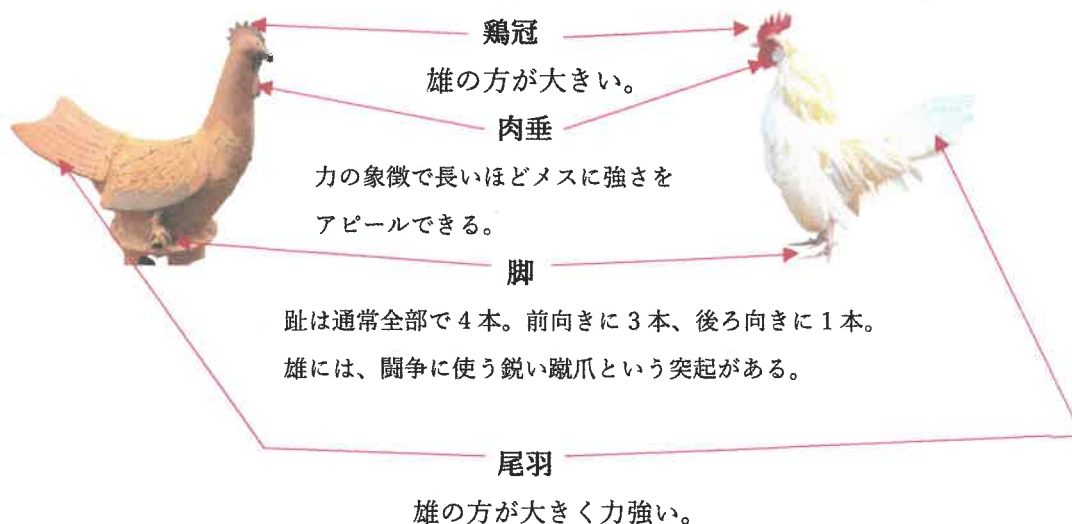
・政治的な権威の象徴

赤堀茶臼山古墳は帆立貝形古墳だが、畿内と共通する質の高い埴輪を飾ることで、被葬者であるこの地域の有力者がヤマト王権との強いつながりを示し、自らの権威を誇示しようとしたと考えられる。つまり埴輪は単なる装飾ではなく、当時の政治的なメッセージを伝える道具だった。

2. 鶏形埴輪とは

(1) 雄の鶏形埴輪と雄のニワトリ

赤堀茶臼山古墳から出土した鶏形埴輪と実際のニワトリを比較してみる。



同じ点：鶏冠、くちばし、肉垂、脚、尾羽などニワトリの特徴的な部分がしっかりと表現されている。特に、鶏冠と尾羽は大きく力強く作られていて、本物のニワトリの姿をよくとらえている。

違う点：大きさ！実際のニワトリの体調は約 50 cm ほどだが、この鶏形埴輪は高さ 86.4 cm もある。
私の身長のおよそ半分ほどにもなり、想像を超える大きさだった。



(2) 赤堀茶臼山古墳出土の鶏形埴輪の特徴

①全体像がわかる鶏形埴輪として東日本最古

復元した赤堀茶臼山古墳出土鶏形埴輪は、東日本で全体像が明らかとなった中では最も古い鶏形埴輪である。



②ヤマト王権の埴輪と酷似した鶏形埴輪は職人の派遣を想像させる

畿内のヤマト王権で製作された鶏形埴輪と酷似した造りである点は、昭和 4 年に帝室博物館(現東京国立博物館)により発掘調査された赤堀茶臼山古墳の家形埴輪をはじめとした形象埴輪群と合わせ、畿内からの埴輪職人の派遣が考えられ、毛野とヤマト王権との直接的な関係を示す。

③赤堀茶臼山古墳と埴輪工房出土の鶏形埴輪が接合

赤堀茶臼山古墳から 3 キロメートル離れた埴輪工房の釜ノ口遺跡より出土した鶏形埴輪翼片は、赤堀茶臼山古墳出土鶏形埴輪との接合が判明し、埴輪の製作地と供給先が具体的に明らかとなった国内でもめずらしい埴輪である。

④明らかになった鶏形埴輪の雌雄

赤堀茶臼山古墳出土の鶏形埴輪は雄鶏で、昭和 4 年に出土した東京国立博物館所蔵の鶏形埴輪は雌鶏であることがわかり、少なくとも雌雄一对の鶏埴輪が存在していることが明らかとなった

(3) 雄鶏と雌鶏が「一对」だった！？

赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪が雄雌一对であったことは、それぞれの埴輪に見られる特徴を、考古学的な専門知識に基づいて詳細に分析・識別することで明らかにされた。

①雄鶏の埴輪の特徴

赤堀歴史民俗資料館に所蔵されている鶏形埴輪は、雄鶏の胴体であることが判明している。特に重要なのは、脚の部分に蹴爪が表現されている点である。

- ・蹴爪とは： 鳥類の脚にある、後ろ向きにとがった突起のこと。ニワトリでは雄鶏にのみ見られる特徴で、縄張り争いや求愛の際に使われる。



- ・埴輪での表現： I：この埴輪の製作者は、雄鶏の象徴であるこの特徴を強調しているように感じる。止まり木をつかむ力強い両脚と雄鶏だけにある蹴爪を立体的に造っている。たんにニワトリを模倣したのではなく、雄の持つ強さや威厳を表わしたと考えられる。

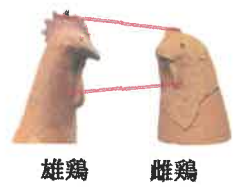
II：昼間は地上で活動し、夜間は危険を避けるために高い木に止まる鶏の習性を見事に捕らえた造形と考えられる。

②雌鶏の埴輪の特徴

東京国立博物館に所蔵されている鶏形埴輪の頭部は、雌鶏のものと特定されている。

- ・鶏冠や肉垂の表現： この頭部は、雄鶏と比べて鶏冠や肉垂が非常に小さい。

- ・本物のニワトリとの比較：本物のニワトリでも、雄は鶏冠や肉垂が大きく発達するのに対し、雌は小さいのが一般的。この埴輪も雌の特徴を忠実に捉えている。



雄鶏 雌鶏

このように、同じ古墳から出土したとみられる、それぞれの性別を明確に示す2つの個体が確認されたことで、当時、この古墳に雄と雌の鶏形埴輪が「一对」で立てられていたことが明らかになった。

③鶏形埴輪の役割

これまで見てきたように、赤堀茶臼山古墳から出土した鶏形埴輪は、単なる鶏の形をした置物ではない。古代の人々がこの鶏形埴輪にどのような役割や願いを込めたのか、そして古墳の中でも特に重要な場所である家形埴輪のそばに置かれていたのはなぜだろうか。この謎を解き明かすために、鶏が古代から持っていたと考えられている、いくつかの特別な意味について見ていく。

I. 時を告げる鳥としての鶏

夜明けを告げる鶏は、闇を払い、新しい一日をもたらす存在と見なされていた。このことから、死者の魂を新しい世界へ導く「再生」や「蘇り」の象徴として置かれた可能性がある。

II. 神聖な鳥としての鶏

古墳時代の人々は、鶏が神々の使いであり、人間と神様の世界をつなぐ存在だと信じてい

た。例えば、日本の神話では、天照大神を天岩戸から誘い出すために鶏が鳴いたとされている。このことから、鶏形埴輪は、被葬者の魂が神様の世界へ安らかにいけるようにという願いが込められていたのかもしれない。

Ⅲ. 子孫繁栄と豊穡の象徴

雄鶏と雌鶏が一对であることから、子孫繁栄や豊かさを願う意味合いも考えられる。被葬者の家系が永遠に続き、その繁栄が未来へと継承されることを願う、古代の人々の切実な思いが込められていたのかもしれない。

日本神話にニワトリが登場

むかし高天原の国に天照大神という太陽のように明るい神様がいました。困ったことに彼女には乱暴者で名高い須佐之男命がいました。諫めても反省の気配もない弟に手を焼き、天の岩戸に引きこもってしまったのです。

するとどうでしょう。たちまち国中が真っ暗闇になりました。



これには神様たちも困り果て、岩戸の前に集まると歌や踊りではやし立てました。そして朝が来た合図にニワトリたちにコケッコー、コケッコーと次々と鳴かせたのです。

外が余りに賑やかで、時を告げるニワトリまでも盛んに鳴き続けています。不審に思った天照大神が重い岩戸を少し開けて覗きました。この時を待っていた力自慢の神様がグイとばかり岩戸を開き、一人の神様がすかさず天照大神の手を取り外に誘いました。まばゆいばかりの光がさんさんとふりそそぎ元の明るい国に戻ったのです。

<またまた館長さんに質問>



赤堀茶臼山古墳から出土した鶏形埴輪は、羽毛の表現や蹴爪など非常に細かいとおもいました。この鶏形埴輪芸術性の高さはどのような点にあると思いますか？



曲線があってゆるやかで立体感がある。カーブがいい感じですね。そして通常のニワトリより大きい。鶏の存在の意味をよくあらわしているところかな。大和朝廷から派遣された慣れた職人がつくっているのではないかと考えられているよ。



ニワトリが夜明けを告げる神聖な鳥であることはわかりました。赤堀茶臼山古墳の鶏形埴輪にはそれに加えてどのような特別な意味が込められていると思いますか？



闇の中に潜む怪しいものを察知し、闇の中で鳴くことで、悪いものを追い払う、よせつけないという意味が込められていると思うよ。

3.鶏形埴輪からみる男女の役割分担

男女の役割分担の象徴

①雄鶏：夜明けを告げ、時間を支配し、群れを率いるリーダーシップ、力強さ、権威などを象徴していた可能性がある。

②雌鶏：卵を産み、雛を育てることから、生命の誕生、多産、子孫繁栄などを象徴していたのではないかな。

もし、雄鶏と雌鶏の埴輪が対になって配置されていたり、特定の古墳で雄鶏が目立つ場所に、雌鶏が別の場所に置かれていた場合、それはたんなる「つがい」の表現ではなく、被葬者が理想とする社会における男女の役割や、そのバランスを示していたのかもしれない。



最後に

< またまた館長さんに質問 >



もし、タイムマシンがあつたら、鶏形埴輪が作られた時代に行き、どんなことを知りたいですか？



う〜ん、実際に見てみたいが、見てしまったら答えがわかってしまうので、見たくないかな。過程を考えるのが考古学。真実はわかるが考える過程がなくなってしまうので、見たい半分、見たくない半分（笑）



この鶏形埴輪が現代にメッセージを伝えるとしたら、それはどんなメッセージだと思いますか？



闇を照らす一声 ✨
いろいろなことがある時代、見抜く力、生き抜く力をもってくださいと言っているかな。



たくさんお話が聞けてとても勉強になりました。ありがとうございました。

4. まとめ～調査して思ったこと・考えたこと～

今回の調査を通じて、私は、MR体験で感じた鶏形埴輪の力強さや存在感が、単なる偶然ではなかったことを知ることができた。この埴輪には、ヤマト王権とのつながりや、子孫繁栄、そして邪悪なものを払うといった、古代の人々の切実な願いや高度な思想が込められていたことに、深く感動した。この鶏形埴輪は、当時の人々にとって、古墳を守る「守り神」であり、被葬者の未来を願う希望の象徴だったのだと思う。埴輪一つひとつに秘められた、古代の人々の想いを読み解くことは、まるでタイムマシンに乗って過去を旅するような、わくわくする体験だった。これからも、埴輪が語りかけるメッセージに耳を傾け、日本の古代史をさらに深く探求していきたい。

群馬の古墳・埴輪の魅力を伝えるために

今回の調査を通して、群馬には素晴らしい古墳や埴輪がたくさんあるのに、その魅力がまだ十分に知られていないと感じた。そこで、群馬県民はもちろん、他の県の人々にも楽しみながら、群馬の埴輪に興味をもってもらえるにはどうしたらいいのか考えた。実際に古墳や資料館に足を運び、古代の人々の想いに触れてもらうための方法を提案する。

① 古墳巡り謎解きイベントの企画

- ・ イベント名：「古墳に眠る秘密を解き明かせ！埴輪からの挑戦状」
- ・ 場 所：群馬県内複数の古墳、歴史博物館、資料館
- ・ ルール：歴史博物館や資料館で配布される地図と謎解きキットを使って、古墳や周辺の史跡に隠されたヒントを探す。各チェックポイントには埴輪に関する問題があり、すべて解き明かすと、最後の答えが導き出される。



問題の例：

- ・ 第1の謎（赤堀茶臼山古墳）：雄鶏の埴輪をよく見てみよう。この埴輪が持つ、魔除けや再生を象徴すると考えられる体のパーツは何でしょう？
- ・ 第2の謎（群馬県立歴史博物館など）：全国でも有数の埴輪が出土する群馬県。あなたの周りの埴輪をよーく観察して、「武装」している人物埴輪を探してみよう。
- ・ 最終問題：最後に集めたヒントを組み合わせると、このイベントの本当のテーマが浮かび上がります。それは「古墳に込められた古代の人々の〇〇を読み解く」です。〇〇に入る言葉を答えましょう！



- ・ 特典：謎解きをクリアした参加者には、オリジナルのミニチュア埴輪（鶏形埴輪



や人物埴輪など）をプレゼントする。このミニチュア埴輪は、自分で色付けできるようなキットにすると、さらに楽しんでもらえる。



② SNS での情報発信

多くの人が利用する SNS を活用して、古墳や埴輪の魅力を発信する。

- ・「**ハニワのトリビア**」：今回の調査でわかった、埴輪に隠された面白い豆知識（例えば、雄鶏と雌鶏の埴輪があったことや、蹴爪の表現など）を、イラスト付きで分かりやすく紹介する。
- ・「**古墳フォトジェニック**」：群馬の古墳は、場所によっては写真映える場所がたくさんある。古墳の美しい風景を写真や動画で紹介し、「**#古墳巡り**」「**#埴輪のある風景**」などのハッシュタグをつけて投稿を呼びかける。

楽しみながら埴輪や東国の歴史に興味をもつ人が増えたらいいと思う。



5. 参考文献

伊勢崎市誕生 20 周年記念事業 第 2 回伊勢崎市史編さんシンポジウム

『すばらしき東国埴輪の世界-伊勢崎の埴輪を語る-』、伊勢崎市・伊勢崎市教育委員会、令和 7 年

令和 4 年度伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館企画展「赤堀茶白山古墳-東国屈指のハニワたち-」

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館、令和 7 年

HANI-本 群馬県 2020 年

もっと知りたい はにわの世界-古代社会からのメッセージ-、若狭徹、東京美術、2009 年

楽しく学べる歴史図鑑 はにわ、スタジオタッククリエイティブ、2021 年

図説はにわの本、群馬県立歴史博物館、東京美術、1996 年

はにわのヒミツ 河野正訓/山本亮、新泉社、2024 年

埴輪ガイドブッカー埴輪の世界、橋本博文、新泉社、2025 年

デジタル版「東国文化副読本」<https://hani-gunma.jp/2021gunmatougoku/top.html>

しらべる HANI-図鑑 <https://hani-zukan.jp>

東京国立博物館 <https://www.tnm.jp/>